

平成十六年度(二〇〇四年度)活動報告

(1) 懇話会および研究会

懇話会

第一回

日時 五月二十八日(金)

午後四時三〇分～六時三〇分

報告者 村井吉敬(上智大学外国語学部教授)

論題 「現在、日本に求められるアジアとのかかわり」

第二回

日時 七月二日(金)

午後四時三〇分～六時三〇分

報告者 山田哲也(椋山女学園大学現代マネジメント学部助教授)

論題 「21世紀の国際社会と国連―武力行使を巡る問題を中心として―」

第三回

日時 十月三〇日(土)

午後二時～四時三〇分

報告者 竹中千春(明治学院大学国際学部教授)

論題 「対テロ戦争とアジアの市民社会―暴力の連鎖を解くのは誰か?―」

第四回(生命倫理ワークショップ)

日時 十一月二〇日(土) 午後二時～六時

統一テーマ「生命倫理を考える視点2―医療の〈現場〉と命の〈現場〉―」

報告者 板井孝彦郎(宮崎大学医学部専任講師)

演題 「臨床現場の倫理問題を考える―エシックス・ケース・カンファレンスの取り組みを通して―」

報告者 渡部麻衣子(ウォーリック大学社会学部)

演題 「イギリスにおけるダウン症を対象とした出生前スクリーニングの発展と現状」

報告者 中山俊宏(日本国際問題研究所主任研究員)

演題 「アメリカが保守化した背景およびその外交的インプリケーション」

報告者 松田 純(静岡大学人文学部教授)

演題 「エンハンスメント(増進的介入)が問いかけるもの―人間像と社会選択の射程―」

第七回

日時 三月二十四日(木) 午後三時～五時

報告者 羽後静子(中部大学国際関係学部助教)

演題 「グローバル危機の時代における『人間の安全保障』をめざして―ジェンダー・多文化共生・都市ネットワークの観点から―」

研究会

日時 六月二十三日(木) 午後五時～六時三〇分

報告者 丸山雅夫(南山大学法科大学院法務研究科教授)

論題 「修復的司法の日本への導入可能性」

(2) 出版物の刊行

名称 「社会と倫理」第十七号

発行日 二〇〇四年十二月二十日

二〇〇四年度を振り返って

研究所員の任用

二〇〇四年度は、学術振興会特別研究員に採用された本研究所以外非常勤研究員の杉原桂太氏を、社会倫理研究所研究員に任用した。従来の第一種研究員3名および第二種研究員、非常勤研究員の体制に杉原氏に加わり、研究所の活動はいっそう活性化することになった。特に、杉原氏には、近年注目されつつある技術倫理に関する積極的な研究活動を通じて、本研究の研究領域の拡充に貢献してもらった。

研究所の移転

二〇〇四年七月に第一研究棟地下から、改装されたN棟への研究所の移転を行った。N棟1階に集密書庫を設け、2階に事務室、所長室、3階に研究所員の研究室5室と会議室を確保し、研究所のスペースはかつての規模にほぼ近づいたといえる。

新たな活動

二〇〇四年度の新たな活動としては、水波文庫の開設とシーゲル・プロジェクト発足を挙げられる。

「水波文庫開設」

水波文庫は、故九州大学名誉教授水波朗氏の遺言により、氏が長年蒐集されてきた法哲学、トマス関係文献等、約七五〇〇点の寄贈を受け、社会倫理研究所に整理収蔵することになったものである。大学の予算により図書の分類と整理を行い、十二月四日に水波夫人およびご子息をお招きし、学長をはじめとする大学関係者とともに開設式をとりおこなった。設置場所は、本研究のN棟への移転に伴い設けられた集密書庫である。本文庫はその蔵書構成に特色があり、法哲学・トマス関係文献としては日本有数のものである。既存の松山文庫と並び、今後広く内外の研究者が利用してくださることを期待している。

「シーゲル・プロジェクトスタート」

シーゲル・プロジェクトはシーゲル第一種研究員の発案によるもので、二〇〇五年秋を目途に、日本とオーストラリアの研究者によるワークショップを開催する計画である。テーマは「九・一一事件以降の世界における公平と平和を求めて―日本とオーストラリアのためのオルターナティブを構想して」であり、本年度は、このワークショップの準備作業の一環として、国内研究者のネットワーク構築を試み、懇話会を継続的に開催した。

二〇〇五年九月十二日から十五日の間、南山大学において、このワークショップは開催される。多数の皆様の参加を期待している。

所長の交代

二〇〇五年三月三十一日をもって、所長の小林傳司が大阪大学に異動するに伴い、所長が澤木勝茂（数理情報学部教授）に交代した。

（小林傳司）